

畳の技 磨き続けて40年

日本人の生活、文化を足元から支えてきた畳。住宅の和室や寺、茶室、道場など、現在も様々なところで使われています。安らぎと快適を与えてくれ、時に心を締めつける場でもあります。最盛期は市内に15件あった畳屋さんも、時の流れとともに4件になりました。そのうちの1件「高橋畳店」にお邪魔し、畳の魅力と伝統の技についてお話を伺いました。



京都で修業

訪れた高橋畳店の店内は、い草のいい香りで満たされていました。「職人」の無口で頑固一徹というイメージとは真逆の、人懐っこい笑顔で高橋さんは迎えてくれました。

「取材しながら畳1枚作るか」。そう言われて、

手際よく、ものすごいスピードで作業を進めながらの取材となりました。

高橋さんは祖父の時代から続く畳屋に携わって今年で40年目に突入しました。「学校を卒業したら畳屋をしたいと思ったんです。それで大学に行く代わりに4年間畳の勉強をしよう」と。高校卒業後、親元を離れて京都の畳店に住み込みで修業を始めます。そこで先輩の技を目で見て盗み自分のものにしてきました。「お茶の家元である裏千家の畳も替えに行ったことがある。貴重な経験をさせてもらった」と当時を振り返ります。全国に3カ所（京都・埼玉・茨城）畳の職業訓練校はあるが、中でも京都は寺社仏閣等が多いので、畳製作の技能・技術は常に全国の先端をいつているそうです。実り多き4年間の修業を終え、実家に戻り本格的に家業を継がれます。

天然の魅力

畳は主に芯材にあたる畳床（たたみどこ）、表面に張ってある畳表（たたみおもて）、そして縁に柄のある生地が縫い付けてある畳縁（たたみべり）で構成されています。畳表の

もともになるい草。お米と同じように田んぼに苗を植え付けて栽培され、6月頃に刈り入れされる、いわゆる二毛作の農産物です。主な産地は熊本県で、お米と同じようにブランド化され、高橋さんのところでも、お客さんの希望によりオーダー出来ます。

一方で、和紙などの原料で織り込まれた新素材、いわゆる人工ものの畳も多くなってきました。住宅メーカーなど注文の約4割を占めるそうです。「しかし、やっぱり畳は天然が一番。部屋の中の湿気も調節してくれるし、日本の風土に適した自然素材なんです。天然い草で作られた畳は年月が経つと色味も変化してくる。経年変化も楽しんでもらいたいポイントの一つです」と高橋さんは、天然ものの魅力を語りました。

「角」が命

取材開始からちょうど1時間半。だんだん畳の形になってきました。畳1枚の製作時間を聞くと「3時間もあれば十分。最高記録は2時間40分」と話します。京都畳技術競技会では昭和58年、59年と連覇された実力の持ち主。畳屋1年生は3時間40分ぐらいかかるそうで、いかに高橋さんが早いのが分かります。「早くても正確さがなかったら意味がない。家ごとに微妙に違う畳の寸法ぴったりに作ることが仕事。畳作りは角が命。角をピシッと揃えることが大事です」と直角にそろった角を見せてくれました。

職人が命の次に大切にされている道具。「これが大包丁。こんなに小さくなるんですよ」。

生涯現役

手入れの時に研ぐため使い続けると小さくなっていくそうです。この包丁で縁にはみ出た藁を切り落とします。次は畳の縁を覆う縁付け。体全体を使って寸分の狂いもなく縫い付けていく様子はまさに職人技です。

「お寺の紋縁を使って畳製作できるのはウチだけなんです」。今は畳製作も機械が当たり前であり、手作業が出来る職人が少なくなってきたいます。古くから付き合いがあるお寺だけでなく、噂を聞きつけ注文されるお寺も多いそうです。他ができない高橋畳店の強みです。

「作る」と「残す」

高橋さんは、小学校の児童を対象とした特

別授業「ミニ畳製作」教室をしています。地元、北条東小学校は平成24年から続けています。また、活動は市外へも広がり、ものづくり大学校でも同様の活動をしています。「畳に触れる機会がなくなっても、畳好きな大人に育ってくれるとうれしい。畳に興味を持ってくれるきっかけになればいいじゃないですか」と微笑みます。

また、3年前からは1級技能士検定試験の審査委員も務めています。「我々の仕事は畳を『作る』ということだけではなく、今では『残していく』という新たな使命があるように感じます。後代には惜しみなく自分の技術を伝えていきたいですね」と次世代の職人育成に意気込みをのぞかせました。

高橋さんの目標は「生涯現役」。作業中の姿勢や長年畳を担いできたことで、最近はやも痛くなってきたといっています。「そろ18歳からしよるもんな。でも動けるうちは頑張ります」と高橋さん。続けて「畳の良いところは、ゴロンとできること。そしてリラックスでき、たまった疲れを和らげてくれる。和室で勉強したら集中力も増しますよね。そんな畳を1枚でも大切にしてくれるお客様を大切にしていきたいと思っています」。

取材は約3時間で終了。畳1枚が仕上がりました。最後に1つ「趣味は？」と質問。「仕事やね」。地域の人たちに愛され、支えられながら今日も手作業で畳を作り続けます。



使い続けて小さくなった大包丁



子どもたちに畳づくりを教える

すっきゃ
かさい
広報
11月

表紙	01
キラリびと	02
特集	04
選挙を知ろう	04
市政情報	08
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	19
わくわく子育て情報	25
そうだ！図書館へ行こう	26
おくやみ／各種相談	27
とびだせ！かさいっ子	28
みんなで使おう加西弁	

KASAI データバンク

R3.9.30 現在（前月比）

人口／ 42,909 人 (-30)

男／ 21,082 人 (-20) 女／ 21,827 人 (-10)

世帯数／ 18,245 (7)

9月の出生数／ 14 人 死亡数／ 40 人

● 11/10、24 は市民課・国保医療課窓口を延長
(17:15～19:00)



2021.11月 すっきゃかさい